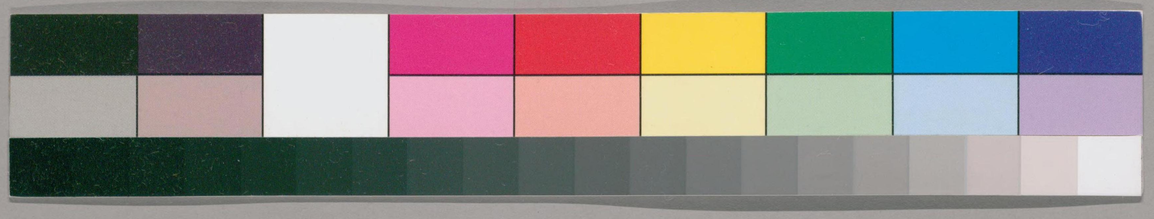
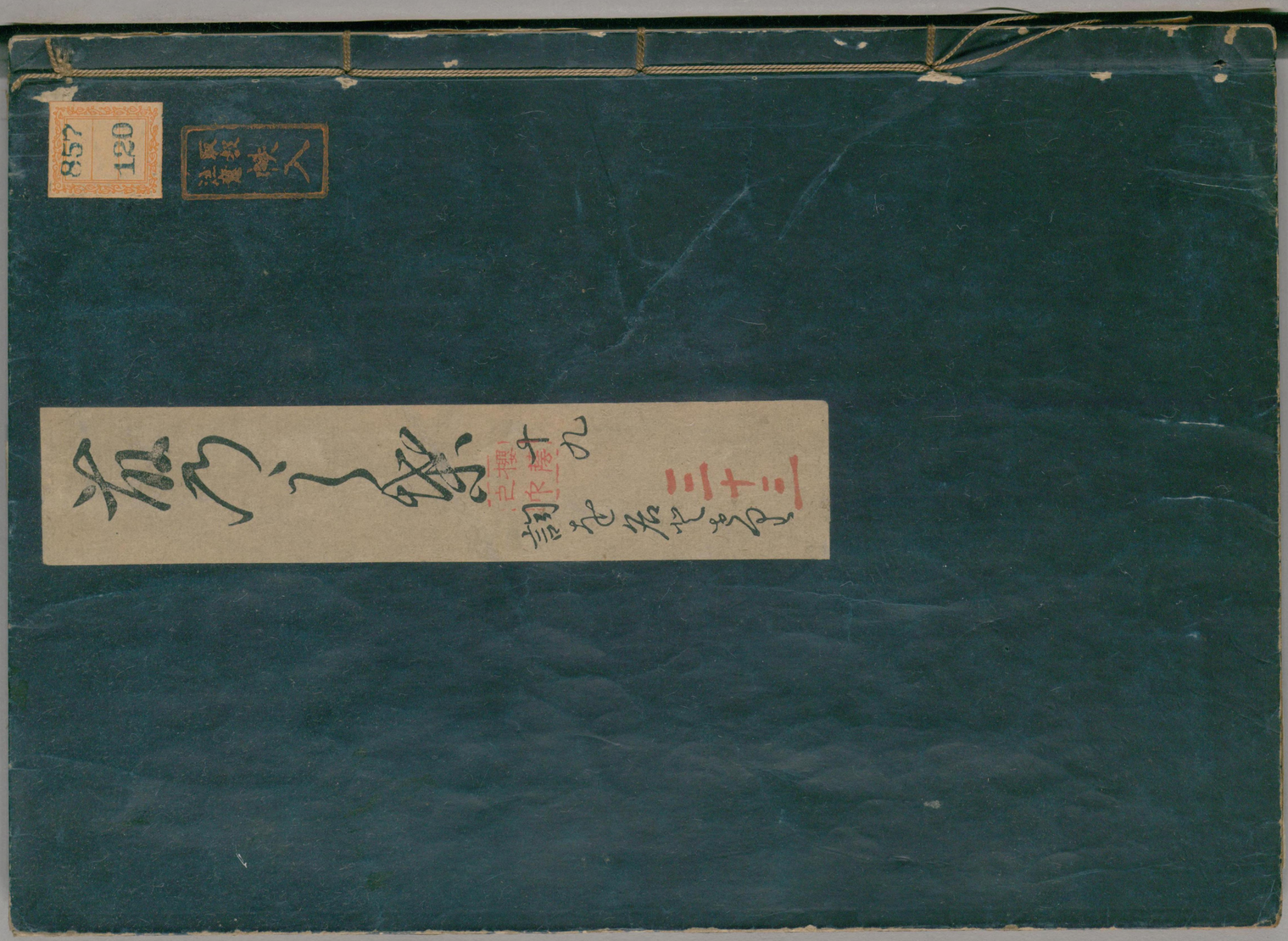




ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

857-120

源氏廿九才の三月より十月までの事 [illegible]

[illegible]

帝國圖書館

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

857-120

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』請求記号 857-120　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

深草ニ在ク昭宣公ノ北建立セ

ほど、花はみなちりみだれ、霞たど〳〵しきに、おとゞむかしおぼし出て、なまめかしううそぶきながめ給ふ。宰相もあはれなる夕のけしきに、いとゞうちしめりて、あまけありと人〳〵のさはぐに、猶ながめいりてゐ給へり。心ときめきに見給ふ事やありけん、袖をひきよせて、などかいとこよなくはかうじ給へる。けふのみのりのえにもたづねおぼさば、つみゆるし給ひてよや。のこりすくなくなりゆくすゑの世に、おもひすてたまへるもうらみきこゆべくなんとの給へば、うちかしこまりて、すぎにし御おもむけも、たのみきこえさすべきさまにうけ

給はりおく事侍りしかど、ゆるしなき御けしきにはゞかりつゝなんときこえ給ふ。心あはたゞしき雨風に、みなちり〴〵にきほひかへり給ひぬ。君いかに思ひて、例ならずけしきばみ給ひつらんなど、よとゝもに心をかけたる御あたりなれば、はかなきことなれど、みゝとまりて、とやかうやとおもひあかし給ふ。こゝらの年比の思ひのしるしにや、かのおとゞもなごりなくおぼしよはりて、はかなきついでのわざとはなく、さすがにつき〴〵しからんをおぼすに、卯月のついたちごろ、御前の藤の花いとおもしろうさきみだれて、よのつねの色ならず

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

北の方（きたのかた）

さぶらふ。

北の方（きたのかた）

「いかでかは。さてもあるべきことぞ。

非参議（ひさんぎ）の程（ほど）にて、さるべきをりをりに、

ものし給ひしかど、

人（ひと）の御（おん）おぼえ、

花（はな）やかなりし御（おん）ありさまに、

事（こと）のつぎめごとに、

人（ひと）の心（こころ）をのみ動（うご）かし、

恨（うら）みを負（お）ひしによりこそ、

かかるためしも、

引（ひ）き出（いで）でらるめれ。

あまりうけばりて、

人（ひと）の御（おん）もの思（おも）ひをも、

知（し）らず、

顔（かほ）なるものは、

必（かなら）ず、

見（み）劣（おと）りし給（たま）ふ、

わざなり。

人（ひと）の御（おん）ためも、

心（こころ）やすくなだらかに、

情（なさけ）あるを、

本（もと）にて、

見（み）過（すぐ）しはて給（たま）へ。

人（ひと）の上（うへ）にても、

かやうに、

人（ひと）の心（こころ）を、

動（うご）かすものは、

女（をんな）の、

もの思（おも）ひなりけり。

七八人（しちはちにん）ものし給（たま）ふ、

御（おん）方々（かたがた）の、

御（おん）心（こころ）やすきを、

頼（たの）みにて、

さるべきをりをりの、

御（おん）遊（あそ）びなどに、

ゆゑある、

事（こと）の音（ね）、

笛（ふえ）の音（ね）に、

つけても、

人（ひと）の、

御（おん）心（こころ）を、

尽（つく）し給（たま）ふ、

上（うへ）達部（たちめ）、

殿上人（てんじやうびと）なども、

あぢきなく、

目（め）をそばめつつ、

やすからず、

思（おも）ひあたれり。

唐（もろこし）の、

ためしも、

引（ひ）き出（いで）つべく、

なりゆくに、

いとはしたなく、

人（ひと）の、

もてなやみぐさに、

なり給（たま）ひて、

桐壺（きりつぼ）

更衣（かうい）

あがりは、

いとど、

心（こころ）苦（ぐる）しう、

思（おも）ひやるかたなく、

悲（かな）しき事（こと）、

多（おほ）かれど、

かしこき、

御（おん）心（こころ）ばへの、

たぐひなきを、

頼（たの）みにて、

交（まじ）らひ給（たま）ふ。

更衣（かうい）

の、

父（ちち）

大納言（だいなごん）

は、

亡（な）くなりて、

年（とし）ごろ、

経（へ）ぬれば、

内（うち）

祖母（おほぢ）

なども、

古（ふる）めかしき、

人（ひと）

にて、

とり立（たて）つべき、

後見（うしろみ）

なども、

なく、

よわよわしき、

御（おん）

有様（ありさま）

なれば、

事（こと）

ある、

時（とき）

には、

なほ、

この、

更衣（かうい）

の、

御（おん）

方（かた）

ざまの、

人（ひと）

の、

後見（うしろみ）

なきを、

思（おも）ひ、

やすらひ、

給（たま）ふ、

べかめり。

いとかしこき、

御（おん）

心（こころ）

ざしの、

あまりに、

て、

人（ひと）

の、

もてなやみぐさに、

なり給（たま）ひて、

桐壺（きりつぼ）

更衣（かうい）

あがりは、

いとど、

心（こころ）苦（ぐる）しう、

思（おも）ひやるかたなく、

悲（かな）しき事（こと）、

多（おほ）かれど、

かしこき、

御（おん）心（こころ）ばへの、

たぐひなきを、

頼（たの）みにて、

交（まじ）らひ給（たま）ふ。

更衣（かうい）

の、

父（ちち）

大納言（だいなごん）

は、

亡（な）くなりて、

年（とし）ごろ、

経（へ）ぬれば、

内（うち）

祖母（おほぢ）

なども、

古（ふる）めかしき、

人（ひと）

にて、

とり立（たて）つべき、

後見（うしろみ）

なども、

なく、

よわよわしき、

御（おん）

有様（ありさま）

なれば、

事（こと）

ある、

時（とき）

には、

なほ、

この、

更衣（かうい）

の、

御（おん）

方（かた）

ざまの、

人（ひと）

の、

後見（うしろみ）

なきを、

思（おも）ひ、

やすらひ、

給（たま）ふ、

べかめり。

いとかしこき、

御（おん）

心（こころ）

ざしの、

あまりに、

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

ひきつくろひてぞおはしまし給。これはまたやうなり
むべくしきれ抱親はすこしおくりてもれなき
けうなりける給。菊の花のみづれとおもくされひとけ
けり。めでたくめおほどろかぬはあさきを、ゆるしもとく
うちすてもうめるがうしめしう おぼゆかる
はひでの菊のひとりうちをされて殺はさささうる
ほどなん。おやしうらまておきされはおぼし
もちべる。うろもきる。あまりしきゆかりまでも志河
しうちてゆてにちへるうしきあれて白も
さうげなり。月いさしいそぬれど。菊の色さそうるも
こゝぬほどあるをまてあそぶりごうろをよきて

夏こそさききくり名春の花
松まとのこゑも
さびたる月

内大臣ナレバヘイテハ心ミヨウ久
あはれさまりれあそびし給。おもうどほどなく
しきもイカヽナレバソラ酔ヲシテナト之
しきとひそしのそまぢかくしきおおもり
給を。さるころしそいてうすまひあやめり。とをも
すゑの世にはあまりまでおあのまうとのゆうそくは
物し給めるをどもそひありめる人。おはひすて給
以ノ我カ親カタナルニツノ家礼ノヨシミモニシ
あんつくりけり。文籍よも家礼といふこともおろ
ウラミ給フロトハナリ家礼ト云ハ子ノ父シウヤマウ事他人ナレドモ子ニ准シ
べうや。あるよしのそうへもようあそうんと
イメスシバ今ノ世ニモ家礼トテナニガシノシシヘ儒者ノシシ
そうひのうつをいてう心あるやまし給とうつそそへ
酒ニ酔テナクヲ
へくあんあるどのあてまひあるさまやおりしこ給は
モシユルス事ヲ
気色げなる給。うつそでうむりしせ世の人好かれりたまへ
どもまは男をせつくさ被はもとまそせさまの人あり

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

どもはいはゞをせつさ海はもとそせむとまゐりぬ

文籍に家礼といふ事はしるしてあるべしや

史記曰高祖幸父々公以家礼敬之高祖雖子君也太公雖父臣也又云漢書高帝紀六年

高祖五日一朝太公云云家令説太公曰天無二日土無二皇帝雖子人主也太公雖父臣也奈何令人主拜人臣如此則威重不行後上朝太公雖擁彗迎門

勃行上大驚下扶太公々々七日帝人主也太公何以我乱天下法於是上心善家

令言賜黄金五百斤夏五月丙午上尊太公曰太上皇

[illegible]

沛写沛中豪桀之史聞令有上皇客皆往賀晉何為王史主進令諸大夫

曰進不滿千錢坐之堂下高祖為素易諸吏乃給為謁賀錢萬貫不

持一錢謁入呂公大驚起迎之門呂公者好相人見高祖状貌奇之

引入坐酒闌呂公因目固留高祖云云竟酒後呂公臣状好相人云云多矣

無如季相願季自愛臣有息女願為季箕帚妾酒罷呂媼怒呂公曰

公始欲奇此女与貴人沛公善公來之不与自妄許与刘季呂公曰此

兒女子所知也卒与刘季呂公女乃呂后也生孝惠魯元公主

文籍に家礼といふ事はしるしてあるべしや

史記曰高祖幸父々公以家礼敬之高祖雖子君也太公雖父臣也又云漢書高帝紀六年

高祖五日一朝太公云云家令説太公曰天無二日土無二皇帝雖子人主也太公

雖父臣也奈何令人主拜人臣如此則威重不行後上朝太公雖擁彗迎門

勃行上大驚下扶太公々々七日帝人主也太公何以我乱天下法於是上心善家

令言賜黄金五百斤夏五月丙午上尊太公曰太上皇

[illegible]

沛写沛中豪桀之史聞令有上皇客皆往賀晉何為王史主進令諸大夫

曰進不滿千錢坐之堂下高祖為素易諸吏乃給為謁賀錢萬貫不

持一錢謁入呂公大驚起迎之門呂公者好相人見高祖状貌奇之

引入坐酒闌呂公因目固留高祖云云竟酒後呂公臣状好相人云云多矣

無如季相願季自愛臣有息女願為季箕帚妾酒罷呂媼怒呂公曰

公始欲奇此女与貴人沛公善公來之不与自妄許与刘季呂公曰此

兒女子所知也卒与刘季呂公女乃呂后也生孝惠魯元公主

[illegible]

儒道の教とは　[illegible]

[illegible]

礼太公家令説太公曰天無二日土無二王今高祖雖子人主太公雖父人

臣亡奈何令人主拜人臣如此威重不行後高祖朝太公擁彗迎門却行

高祖大驚下扶太公々々曰帝人主也太公何以我乱天下法於是高祖乃号

太公為太上皇心善家令言揚金五百斤注蔡邕曰不言帝恐天子也索

隱曰按本紀漢始皇追尊莊襄王為太上皇已有故事矣蓋太上者無

上也皇者徳冠於帝故尊其父号太上皇也

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用　挟み込み物

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

うたくちの世のの
あふさかやせき
のあふさかやせきや
まさもれしとも
ちれ二たまかれ
ともいてしれ
ぬやいでしれ
ねぬやせきの
あふさか

がきのもとむきさいぞくとゞめ給つや。ゆきさぬし人をはしるを　カタハライタキ人カナト云心

わくらもぐちのとそ。さし、いへなほし

うれしのみへば。女いとゝきましとあはれにして

あふさき名をいひあふげけり河ぐちもいへ

よしの関のあらざさ。おほきましとの給ふ遠いを

うあきぞり。すぐりうちいひて　女房制シ玉ヒシヲ強ヒテトカメズ　二条ノ三

ありまけりみぞの関をうたうりのあさきさる

のそれありをざらちあん。年月のへだてもいとほり

あくるやまりこさる。地おほしずとおひまうちて。

ろうしけるまてあて。おくらもあらまぞにあり。

ひとくさてもつふをあふとびきてりがほあする

河菊多剗関　在陸奥
擬郡司九八人　白川菊多剗守六十人
正暦十八年二月九日

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

人ゆるうるづしひ。そろいられさで。すぐされうる
ちん。すうし人まぬけうりけるれこころとおぼしけ。
おとゞのれとさてのあまりすくえて。ちゞうりなく
くげおれ給ぬるを。世人もいひいづるゝとあらんや。
さりとてもつゞ方うけ。せかれは心をごりして。
すさゞ志うさ心ぞ人ちゞもしし給ふ。さうそおもしきも
いつゝりまおぼさ。ちゞ心とさてとこゝぬれど。志るの
心ぞ人おしゝぞ。くをありて。人見しまくき所
つさぬ人ちりちゞ。れいのなしへきろしなふ。
こしうちあひめやすされあまひとおぼさる。れ子
ともこゝ。ずすくしかこのうこぞうりとこゝ給。ぼう
ぼうまてはおちゞ。ぼをうけしとりうるとみ
ゆるを。おまへまてはさぬぐあれめでこと。こゝ給

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

あらず車そぎたる志をけたひことあり。まつりの
日のあるつきはまうでのて。うへさまの御拘れんぞ
べき。れさしきはおもします。れうるぐの女ばう。
をのく車ひきつでさて。れまのへとらるべしめ
る程いるあしう。かれいそれとそれめよろも。おどろ
おどろしきれいさほひあり。おとぐも中宮の御
母ゑやもぞの。車をしさけられあへりしおりの
こと。そのほかの程々ちて。おりとまれる人ぞも。中将は

昔御息シ思ケチ行葵ノ子ノタハ今タヽ人ニテケツリ御息ノ子
くゝ人まて。まづくまありのぼるめるも。ゑやはあるノ杖ハ
中宮ニナリナラビ天子ニテシハスル鬼ヘハ定ナリ衰ナルヿナリト
びあるさすぢまておりするも。おもへはいとこそ老
源ノ芝ヘカタリ行ニ
あれずべて。いくさぐめあるさ世あればまて。何ぞまも
せふまゝまて。いけるかざりの世をすぐさ夜なし

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

昔ハ鬼ヲ思ケチ折蓑ノ子ノタメハ今タヽ人ニテケツリ出鬼ノ子
くゝ人まて。まづくまりのぼりめるも。こゝやはらノ杖ハ
中宮ニナリサラヒ給ヒテニテシハスル鬼ヘハ定ナク衰ナルヲナト
びちるますぐまてをはするも。おもんへはいとこそ老
源ノ業ヘカタリ折之
なれすべていとさゞめるまで世なれはべりて。何ごとも
せふまゝまて。いけるかぎりの世をすぐさ海なし
それど。紫ノこり給はんすゑの世なるべのこゝろとしへなさ
おとろへなどせさへ。せひまゝなれば。とうち
うちしのて。上遊ならぬもれさしきこと。ものまゝ
ぬへれば。そなるに出のぬ。近衛づかさの使ハ。柏中納
ちりなりぬ。れ大夫まて。出ろろ取りてぞ人ぐハ来り
給ける。惟光朝臣
ことまて。問村。家よりもじめまりて。六条院ちなど

まてていと定なき世なれはとて何ものもしらぬまゝにいもとりかはし
なれとなりん末の世のなりしいかなるにかはとなれ
うらうらしくて
蓑上のものと宣てさて世をうらめしくとしゆ
衛しくこそへて引まとなりかりんの子給のおとゝ
めりしんあしてしてこの面をもてるこそすしてこの子給のおとゝ
とハ思ふさぬ里と蓑上へ御らすまゐりとしてなり
を和つるこの役をハ中納なりけり
雨雲祭
銘明天皇御世二天下泰国風吹雨
雲不時勅ト部伊吉君日子令ト乃賀茂神崇也撰四月吉日馬繋鈴人蒙猪影而
駈馳以為祭礼
以中将近衛役ノ例并近衛役始可勤
日ことに来遊とゝ
人信濃ハを来るものの役定さるを雨さ
又還立ものの御式をしてし并問雲雨祭の役の役の役物ノ一部をさもてもて雨立
子息中納言代なり年をしてて来れて奥すりまして

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

[illegible]

源ハ此万太政大臣ナレバソレニアラタメテ院司ナド補セラレ

[illegible]

本朝例　草壁皇子天武才二子　文武追号　長岡天皇

日並知皇子　天武子文武父　宝治三年有勅追崇号　称岡本天皇　見續日本紀

舎人親王　文武弟八　追号盡敬天皇　イ崇道盡敬天皇

天智才三子　光仁父　追号田原天皇　敦明親王三条院御子　寛仁元年八月廿五日院号

太上天皇封戸　二千戸　勅旨田千町　本東宮坊

院司　別當　公卿　四位或五位　判官代　五位或四位　反上人六位　蔵人　哭　能蔵人

壬典代　上廳官　召次所　仕所　別納所　御膳所　所衆

武者所　渉隨身所

太上天皇ハ二千二百五十戸也　太上天皇ハ二千戸也　而院号ハ

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

おもしろうて、うけろひろうな給もをて
あさ（夕）ごとり　浅緑ハ六位ノ袍ナリ　紫ハ四位已上ノ袍也
ワ紫のきくをあまりてもこき紫の
衣をぬきかへて　ことばどもこそ
こきむらさきの　多とかけきやうしかりのひとことばどもこそ
色をえんとい　ワすられひとしいとまほひやうまほゆるまでうまへ里
大輔ノめのとの　まづしうおしき物ども。うけうしうこゆる
大輔乳母　あさ紫よりあらく。なほそのこころなれがあさき
アサキ色ワクノハ　浅黄
うへーよりなほうる　六位ノ袍ニソヘタリ
そのくきてなれた　多もくなりもあらりきいうまこころなるものの人里
ぶとくてなりてや　けうまうといとなれてうるしげるいとほひま
あるものをなん　さりて。うるれすまねもとこころせなれば三条殿より
ワたりまぬすこしあれまくる　とのとくすり
ワたりまぬすこしあれまくる　とのとくすり
むしあれりて　大宮　しやのおりしまし方をあしくめ志け
大宮のおとしの所のまゝ久の君　之井ノ君よ　はかしまくそこらなりし所のまゝ

けうきみとりまゝ紫の君後宮行てもとこ黒のくてこうきやう
御禊はいと見まほしけれど見ぬ人はいとおほかるべし
千万ありともこれにしかじとおもふ　光源氏
色色ハ衣服令ニ一位深紫二三位御禊ハ四位深緋五位御
禊緑ハ浅紫四位ハ深ク御禊ハ六位ハ浅緋ハ薄ク御禊ハ浅緑ハ黄
と対安とよく深て御禊ハ藍ハ黄蘇ハ黄ハ薄ク御禊ハ
四位緋三位ハ深ク御禊ハ紫ハ一品親王ハ濃ク御禊ハ
記ハ見えたり又紫を御禊ハ女五所の女ときこえ黒きとあるハ
十位の衣ハ六位なるハ御禊ハ深ク御禊ハ三位ハ御禊ハ
一位の袍のことハ六位なるハ御禊ハ深ク御禊ハ
ありけれ御禊ハ六位の袍ハ黒ハ位袍ハ
御禊ハ六位の袍ハ黒ハ位袍ハ
袍の色ハ四位ハ見えたり三位より一位まてハ同色ハ今の世ハ四位の袍ハ三位ハ差別す
ハ御禊ハ底明て光御禊より中ほてハ位ハ御禊の
のまとこと黒といふ
ふこと黒ありけるこそ黒の君なるれ　あさきこと
数之　すこしあらはれ　御禊ハ
御禊ハ六位袍ハ
御禊ハ六位袍ハ
御禊ハ六位袍ハ
御禊ハ六位袍ハ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

我やどのいさら小川の古清水まてそおもふえひとりをそ

夕あれをそハ岩もるあるじ人のゆく衛ハ（水シサシテ此二ツハト云リ）（大文字ナトノるすん）

ふるやかされましかハ女君（古清水）

あさき人のけしきまよひつれなくてこゝろな

やれのこゝろねの水。おもひのまゝかはおもとく

うちとけまさりて縁けるを。紅葉のあまおとろ

うちれて。かくりあへす

八雲ノ抄云ク
出ル水ヲイサラ井ノ水ト云
小井也イサラ小河ト云モ此ナトノ
アサクテナカルヽヲ云也

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

おたへてかけとこのむ花の雲いろとる秋乃風はもこゝ川

とづくりし此心もいとれねば志たりがたは

いづれをもかげとぞこのむふる紫よりねざし

うもをる松のすゑぐ おいぐだもかやうのすぢは

罪しあつめたるを中納言はおりしとおぼせ女君も

おいなくおもてあるこゝて くるしとさく給神な月の

村上天白上行幸朱雀院此例ナウ三ツ

廿日あまりのほどに云条院にも紫乃

さうりまて けうあるべきうびのうゑこさるかに朱雀

院にも此をうそこありて院さへ口たりおりします

そのうちの君はむへもくらぬんうへし小松も若しなり

[illegible]

いつもとも[illegible]

[illegible]

[illegible]

康保二年十月廿九日村上天皇の朱雀院へ[illegible]

[illegible]

康保二年十月廿九日御記曰此日行幸朱雀院辰四刻出居宸殿自朱

雀洛到朱雀院入自永寧坊就馬場御左大将源朝臣可令召御

馬之状源朝臣下殿御馬令馳為光称唯退還本陣暫左右近将監以下

階北辺源朝臣御馬令馳為光称唯退還本陣暫左右近将監以下

近衛以上各共人起陣趨向御厩良久馳御馬先十列次當年駒十疋随次馳ゝ或秋人云

此[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

べかりければ世にめづらしくありがたきことにて。
よの人も心をおどろかす。あるじの院がたも。御心
をつくし。めもあやなる御心まうけをせさせ給。
巳の時より行幸ありて。まづむまばの殿に。左右の
つかさの御むまひきならべて。左右のこのゑたちそひ
たるさほう。五月のせちにあやめわかれずかよひた
り。ひつじくだるほどに。南のしんでんにうつりおは
します。みちの程のそりはし。わた殿には
にしきをしき。あらはなるべき所にはぜじやうをひき
いつくしうしなさせ給へり。ひんがしの池に舟どもうけて。
みづしどころのうかひのおさ。院の鵜かひをめし

毯ノウヘ布ニ簟ニ幄ヲシカレタルシテセ
幕ノヤウナル物ニ書キ松ナドシ繪ニカキテ壁ニソヘテリセ
呼ヌ 六条院ニテノ事也 御厨子所ノ鵜飼ノ長サトハ内裏ニ有物ニヤ

ならべて。鵜をおろさせ給へり。ちひさきふなども
くひたり。わざとの御らんとはなけれども。すぎさせ給
ふみちのけうばかりになん。山のもみぢいづかたも
おとらねど。にしのおまへは心ことなるを。中の
らうのかべをくづし。中門をひらきて。きりのへだて
なくて御らんぜさせ給。御ざふたつよそひて。あ
るじの御座はくだれるを。せんじありてなほさせ
給ほど。めでたくみえたれど。みかどはなをかぎりある
ゐやゐやしさをつくしてみせ奉り給はぬことを
なんおぼしける。池のいをを左少将とり。蔵人所の
たかがひの北野にかりつかうまつれるとりひと

一勘巻 御厨子所ハ主上ノ御膳ヲツカサトル所也ソレニヨセラレタル鵜飼ナルベシ
秋好
秋ノ宮ナルニヨリ西ノ御方トナリ
敬心

ちひさきふなどもくひたり
天安四年九月十一日中宮之釣殿台濱渚丹波春助下網捕魚得一二唯鯉鮒即放入之夜還御　應和元年三月廿日之釣殿覧魚網又令泛舟於池　延喜八年六月十八日從神泉苑西掖門入御殿左大臣作令捕池魚左右近衛督經紀臣捧一駅捕得魚奉覧則御前料理供膳作絵侍臣等給之
同十八年二月九日入神泉苑東門至池下輿此門左右衛門以網捕池魚付御厨子所調供又殿下賜給侍臣亦乃酉一刻競馬
同年十月八日幸朱雀院為院造作乃御馬也左右馬督藤原朝臣諸捕魚依請左右近衛人率御厨子令舉網魚入於御前池得鯉鮒十餘喉於御前調供
又於東御下賜給侍臣

ちいさきさまともくひたり

下綱捕魚得一二唯鯉鮒即放入之夜還御

又令浪舟 御沙汰延喜八年五月廿八日從神泉苑西掖門入埒殿左大臣仰令捕池魚左衛門督法經紀長棒所捕得魚奉覽則御前料理供膳餘給侍臣 [illegible]

門左常衛門以綱捕池魚付御厨子前調供又屏幔下調給侍臣亦乃西一剋競馬

同年十月八日幸朱雀院為院造作乃御馬也左衛門督菅原朝臣諸捕魚依

請左衛門宮人率門戸令舁綱參入施綱前池得鯉鮒十餘喰飛御前調供

又北東砌下調給侍臣

[illegible]

一勘者 作厨子所ハ主上ノ作膳シワカサトル所セソレニヨセラレタル物領ナルベシ

あらべて、粉をおろさをたまへり。ちいさきふれども

くひたり。ひざとれはらんとはあけれど、すぎさせ給

うちのけうちりまゐん。山のまみぢはいげるを

をとられど、ましのおまへは心ことなるを、中の

秋好

ちうのうへをくげし。中門をひらきて、きりのへだて

秋ノ夏ナルニヨリ雪ノ人ヲ下ト云リ

おくてはらんぞさせぬふ。御座ふたりよそひてお

ゐじのれ座はいくばれるを。をんじあてをさを

給ほど。めでたくこえられど。こうどは私のぶりあるを

敬心

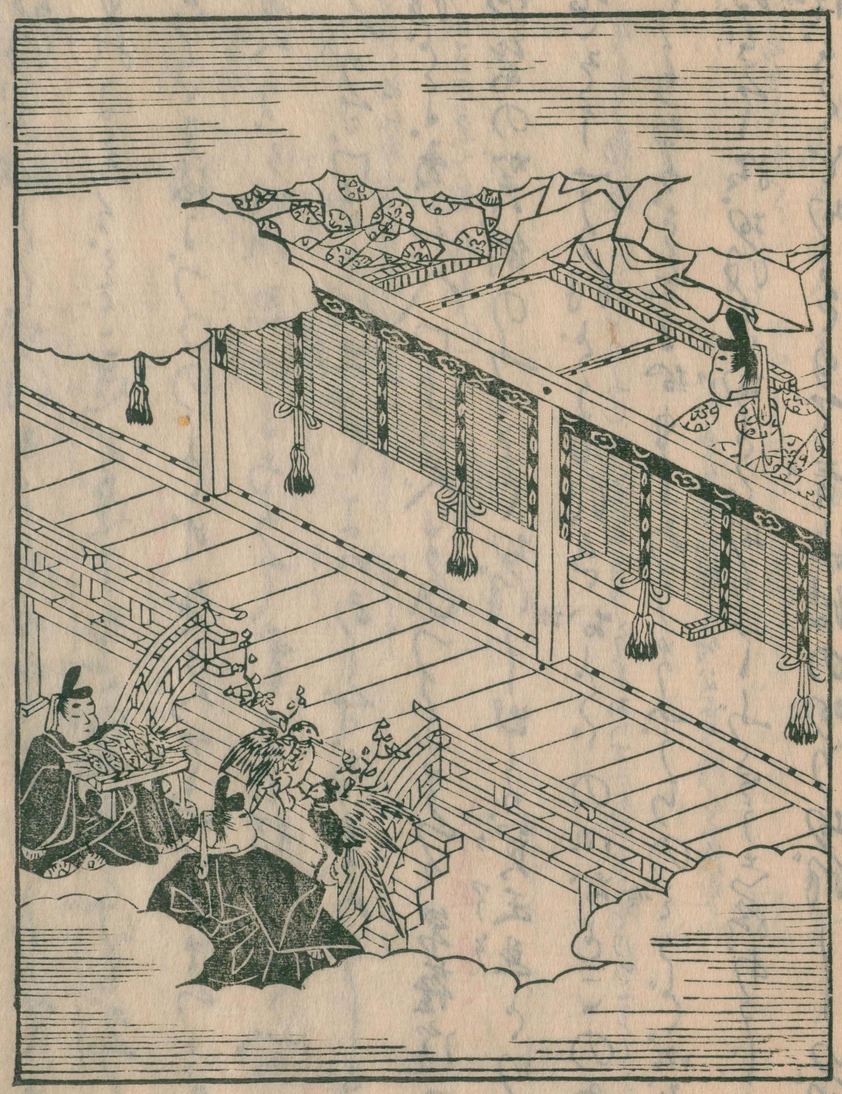
いやしきをけうして。こをなり給ぬこと紙

なんおぼしける。池のいをとて。たのかねとり。蔵人所乃

そうぶひの小聖まうりつうまつれる。とりひと

呼同 六条ノ院ニテノ事也作厨子所ノ物領ノ名サトハ内裏ニ有抽ニヤ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

857
120

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』請求記号 857-120
ガラス使用